

映画「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」
監督・脚本 矢口 史靖

緑のエッセー

私が育ったのは、神奈川県伊勢原市の丹沢山塊の麓です。緑の深い山や朝露に濡れた草、虫をはじめとした生き物のたくさん棲む森林等に親しんで育ち、家から小学校までの道すがら、川でザリガニを採ったり、田んぼや畑で転がり回って遊びました。

ですから、映画「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」のロケ地となった三重県山間部に広がる森林にも、何の違和感も覚えませんでした。しかし、林業となると話は別です。これまでに林業という文字すら書いたことがないほど、完全な素人でした。それが今回、林業を題材とした映画を撮ることとなり、最初に感じたのは「ここには、まだ知られていな

が七転八倒するようになりました。物語の舞台となる神去村も、原作以上にインパクトの強い、勇気が悶絶するような場所として描きました。自然に抱かれた素敵な村だとか、山々の麓にエコロジーでオーガニックな生活が待っているといった夢物語のような描き方では、お客さんに山村での暮らしを疑似体験して貰うことはできないし、逆に失礼だと思つたんです。

勇気は何度も逃げだそうとして失敗し、1年間、もしかしたらそれ以上の年月を山村で暮らしていかなければならないという選択を迫られて、なじみのない環境で生きていく覚悟を決め、次第に山の素晴



●プロフィール
昭和42年生まれ。神奈川県伊勢原市出身。
昭和42年生まれ。神奈川県伊勢原市出身。
東京造形大学入学後、8mm映画を撮り始める。
平成5年「裸足のピクニック」で劇場監督デビュー後、独特なユーモアセンスが光る作品を次々と発表する。
平成13年「ウォーターボーイズ」、平成16年「スウィングガールズ」、平成20年「ハッピーフライト」、平成24年「ロボジー」等の劇場映画を発表。
最新作は、今年5月公開の「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」。

生、さらに孫たちの人生にまで引き継がれていくということが、林業という物づくりの持つモチベーションになっているのではないかと思つたとき、この壮大で不思議な仕事を映画の中で描きたいと思いました。
私の映画を見て、山村の暮らしや林業という仕事に興味を持った方には、ぜひイベントや森林ボランティア、研修制度等で何度も実際に体験を重ねてみてください。とくに真夏など、厳しい季節を体験してみることをお勧めします。そうして、覚悟と経験を積み重ねた人たちが、森林や山のために役立ち、木を守り育てていく人材となつて、山村に根づいてくれることを願っています。

い新鮮な世界がある」ということです。

森林にはきつと林業家の方しか見たことのない景色があるに違いない。誰も映画として描いたことのない林業のシーンには、きつと発見や驚きが満ちているだろうというワクワク感があり、当初から、必ずや面白い物語になるだろうという予感がしていました。

林業と接点のないほとんどのお客さんは、都会育ちの主人公・平野勇氣と同じ感覚で物語を体験するのではないかと思つています。ですが、普通の若者が山村の素敵な暮らしに触れて立派に成長するのではなく、底なしにちらんぼらんで意気地なしの男の子

らしさや山村の暮らしの味わいを知っていきます。当然、それには葛藤があり、環境になじんでいくための長い時間や多くの段階が必要となります。その姿を描くことで、山村の暮らしや林業を描きたいと思つきました。映画を見ただけのお客さんたちが、簡単に山村での生活や林業を始めようと考えるしまうことのないよう、厳しい側面も含めて山村や林業に携わる方々に失礼のない物語を作りたいです。

林業という仕事は他の物づくりと異なっているのは、100年、200年という単位で木を受け継いでいくという感覚ではないでしょうか。自分の人生だけでは終わらない仕事があつて、子どもたちの人



©2014「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」製作委員会
「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」
2014年5月10日(土)より全国東宝系ロードショー
監督・脚本：矢口史靖
原作：「神去なあなあ日常」三浦しん著(徳間書店刊)
出演：染谷将太 長澤まさみ 伊藤英明
優香 西田尚美 マキタスポーツ 有福正志
近藤芳正 光石研 柄本明